

26年8月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 7月20日～ 26年8月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目	26/8月	9月	10月	
入荷動向	スギ	0.0	0.0	33.3
	ヒノキ	△ 20.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 28.6	△ 42.9	△ 16.7
	トドマツ	△ 33.3	△ 33.3	0.0
消費動向	スギ	△ 28.6	0.0	△ 16.7
	ヒノキ	△ 20.0	20.0	0.0
	カラマツ	△ 14.3	△ 14.3	0.0
	トドマツ	△ 33.3	△ 33.3	0.0
在庫動向	スギ	14.3	14.3	33.3
	ヒノキ	△ 20.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 14.3	△ 33.3	△ 40.0
	トドマツ	0.0	△ 33.3	△ 33.3

スギ原木の入荷は8月、9月の横ばいから10月は増加に、ヒノキは8月の減少が9月、10月は横ばいに、カラマツは3ヵ月連続の減少、トドマツは8月、9月の減少の後、10月は横ばいに。
スギ原木の消費は8月の減少が、9月の横ばいを経て10月には再び減少へ、ヒノキは8月は減少、9月は増加、10月には横ばいへ、カラマツ及びトドマツは8月、9月の減少の後、10月は横ばいに。
スギ原木の在庫は3ヵ月連続の増加、ヒノキは8月の減少の後、9月、10月は横ばい、カラマツは3ヵ月連続の減少、トドマツは8月の横ばいの後、9月、10月は減少に。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/8月	9月	10月
スギ	△ 28.6	△ 16.7	16.7
ヒノキ	0.0	0.0	20.0
カラマツ	△ 28.6	16.7	33.3
米マツ	0.0	0.0	0.0
北洋カラマツ	△ 75.0	0.0	33.3
その他	-	-	-

スギ原木価格は8月、9月の弱保合が10月には強保合に、ヒノキは8月、9月の横ばいが10月にはやや強保合に、カラマツは8月は弱保合、9月、10月は強保合に、米マツは横ばいで推移、北洋カラマツは8月の弱含みが9月は横ばい、10月は強保合に。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・7月は天候不順により原木入荷は減少。8月以降は入荷増やしていきたい。7、8月と生産調整を行うため消費量は減少、入荷量が減っているが消費量も減るので在庫量は変わらない。9月以降はできれば増やしていきたい。
- ・7月から減産、ほぼ横ばいのカラマツの入荷が若干遅れぎみ、生産に合わせての消費、在庫はほぼ横ばい。
- ・カラマツ入荷が厳しい。
- ・季節要因（梅雨、山切替等）による出材微減と生産減少により一部入荷調整中、出荷は生産減少により低調、秋口（9月-10月）より増加を期待、在庫調整局面ただし秋口需要を見込み一部在庫積み増し。
- ・入荷は、定量在庫確保、生産量に準じた納材対応、消費は計画生産に準じて対応、8月稼働日数19日間、7月初旬業者間で納材計画を改めたため現況適正在庫。
- ・カラマツ、トドマツは、入荷良好、消費減少の見込み、在庫変わりなし。

(原木価格)

- ・合板用は、市場に大きな変化がなければ横ばい。
- ・カラマツは強含み横ばい、その他は横ばい。
- ・バイオマス発電用などの取り合いが心配、カラマツの取り合い多し。
- ・春～夏に場所により下落したものの、出材状況、チップ需要、秋の市況により若干の上昇予測。
- ・上半期同様変動なし。

26年8月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
生産動向	構造用(9mm)	△ 28.6	△ 14.3	△ 16.7
	〃 (12mm)	△ 12.5	△ 12.5	△ 14.3
	〃 (15mm)	△ 25.0	△ 12.5	△ 14.3
	〃 (24mm)	△ 25.0	△ 12.5	△ 14.3
	〃 (28mm)	△ 25.0	△ 12.5	△ 14.3
出荷動向	構造用(9mm)	0.0	16.7	33.3
	〃 (12mm)	△ 12.5	14.3	28.6
	〃 (15mm)	△ 12.5	14.3	28.6
	〃 (24mm)	△ 12.5	14.3	28.6
	〃 (28mm)	△ 12.5	14.3	28.6
在庫動向	構造用(9mm)	△ 42.9	△ 200.0	△ 16.7
	〃 (12mm)	△ 25.0	△ 28.6	△ 14.3
	〃 (15mm)	△ 25.0	△ 14.3	△ 14.3
	〃 (24mm)	△ 25.0	△ 28.6	△ 28.6
	〃 (28mm)	△ 25.0	△ 171.4	△ 28.6

全品目の生産は、8月、9月10月と3月連続して減少へ。

ほとんどの品目の出荷は、8月の減少（但し9mmは横ばい）から、9月、10月は増加へ。

全品目の在庫は、3ヵ月連続の減少へ。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/8月	9月	10月
構造用(9mm)	△ 28.6	33.3	16.7
〃 (12mm)	△ 37.5	28.6	14.3
〃 (15mm)	△ 37.5	28.6	14.3
〃 (24mm)	△ 37.5	28.6	14.3
〃 (28mm)	△ 37.5	28.6	14.3

合板出荷価格は、全品目で8月の弱保合が、9月は強保合、10月はやや強保合に。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

・先月同様に今月も生産調整を行う。梅雨明けとともに荷動きが出始めてきた。住宅着工も回復してきているので今後に期待する。減産効果で在庫調整が進む、荷動きも出始めているので在庫は徐々に減るであろう。

・生産は7月とほぼ横ばい、出荷はプレカット工場の受注が余り良くなく工場の稼働率悪く注文が減、ルート、価格不安定で当用買いが続いている、9mm以外全て在庫増。

・8月休日多く生産減、月を追うごとに出荷増、在庫はアイテムによりバラツキある。

・生産、出荷は低調のまま横ばい、在庫調整中。

・8月は年間稼働日数に添い計画生産、出荷は7月後半より徐々に荷動きあり盆明けに期待したい。7月減産（15%）、8月稼働日数少ない分、今月中に定量在庫にしたい。

・若干の生産減、適正在庫。

(合板価格)

・一部のメーカーからの安値対応が今月までは必要。来月からは値戻しを行っていききたい。

・減産による価格下落はゆるんで来ているがまだ弱い。

・コスト（副資材含め）アップのため秋に向け上昇。

・針葉樹、ラワン丸太ともに購入価格UPのアナウンスあり、但し市況の弱さから値上げ厳しく横ばいでの販売を予想。

・全体的に下落、特に西からの単価安に合わせ気味。

・若干弱含み。